

「第78回 小平南西部地域コミュニティ交通をみんなで考える会」の報告

➤開催日時：令和6年1月10日（水）14時00分～15時30分

➤出席人数：会場11人（欠席8人） 傍聴：0人

1 予約受付・配車システムの検討状況について（報告）

参考資料について公共交通課から説明

- ・予約受付・配車システムについて、5社にヒアリングを実施した。
- ・A社は、700か所以上で提供実績があり、バス停や住所から最適な停留所が発見しやすく、キャッシュレスにも対応し融通が利く。
- ・B社は、高齢者やスマートフォンの操作が不慣れな人でも使いやすい画面表示となっている。説明会については、追加費用が掛かるが柔軟に対応が可能である。
- ・C社は、多摩地域での実績がある。ゼンリンの道路情報を搭載しており、道路規制を考慮したルート設定が可能である。
- ・D社は、都内で実績があり、事前に小平市の地域性についても調べている。高齢者向けに特化したLINEのアプリの導入が可能である。
- ・E社は、デマンド型交通において初期の段階から自社でシステムを開発しており実績が多い。アプリがシンプルで汎用性があるため、運用方法により柔軟な対応が可能である。経費も他社に比べ安価である。
- ・評価の点数については、ヒアリングの実施日により参加者も異なっているので、参考程度に見て欲しい。
- ・B、D、E社は、予算の範囲内であったが、B社はオプション追加により想定している予算の範囲を超える可能性がある。
- ・12月14日（木）に、3社のヒアリングを行った。考える会の方も参加していただいたので、感想をお聞きしたい。

質疑

- ・気になった点は、小平市の状況を理解しているのかどうか。予約にLINEが使えるか。使える場合は、標準装備かオプションか。トラブルがあった時を想定すると、規模が大きい事業者の方が安心できる。
ヒアリングへの参加人数が少なかったため、評価に偏りが生じてしまうのではないかと感じた。
- ・ヒアリングは、1回目で概要を聞いていることもあり、2回目の方が理解しやすかった。
D、E社は説明が分かりやすくて良かった。
C社は、世界規模で事業展開していることから、ローカライズが可能かどうかについて疑問である。E社は小規模の事業者なので小回りが利き、良い印象であった。
D、E社については、南西部地域を二つのエリアに分けずに、一体としても対応ができるのではという考えがあった。
- ・予約の際に、LINEとの連携があれば便利である。
- ・D社は小平市のことを調べており、説明が分かりやすかった。
(公共交通課) D社からはエリアを分けずに南西部地域全域を1台の車両で運行が可能と

いう考えが示されたが、確証された訳ではないので、まずは考える会でも決まったように、2つのエリアで曜日を分けて運行する方法を進めていきたい。実証実験運行の状況に応じて、1台の車両で対応できるという見通しが立てば、適宜タイミングを見て一つのエリアへ移行することも検討できると考えている。

・ A、C社の費用の状況は。

→ (公共交通課) 予算の範囲を超えている。今後、市が絞り込んだ3社の中から、プロポーザルに参加表明している運行事業者が、B、D、E社の3社と調整を図り1社に絞っていく。B社については、基本の金額は予算の範囲内だが、オプションがかさむと予算を超えてしまう可能性がある。費用については事業者ごとに独自に積算しており公表することはなじまないため、評価項目には入れていない。

2 乗合タクシー（デマンド型交通）の実証実験運行に向けた準備について（検討）

(1) 目標値の検討

資料1について公共交通課から説明

継続運行へ移行するための判断の基準について検討する。持続可能な公共交通とするため、コミュニティタクシーについては、目標乗車人数を70人と設定したが、乗合タクシーについても同様に目標値の設定が必要である。

市の補助額を積算するに当たり、運賃収入については、運賃を300円とし、1日乗車人数を60人と見込んでいる。

参考までに、運賃が300円、350円、400円、1日の乗車人数が60人、50人の場合の、運賃収入、1人当たりの公費負担額、収支率についてシミュレーションしたのでお示しする。

質疑

(座長) 運賃と1人当たりの公費負担額との関係は。

→ (公共交通課) 運賃300円で、1日60人乗車した場合の運賃収入と運行経費の差額が市補助金額となり、これを乗車人数で割ると、1人当たりの公費負担額は658円となる。

コミュニティタクシーの公費負担額が329円なので2倍になる。デマンド型交通はコミュニティタクシーに比べ乗車人数が少なく、予約・配車システムに掛かる費用が更に掛るため、運行経費が高くなるためである。収支率は30%程で、コミュニティタクシーと同程度である。

・ シミュレーションをするに当たり、運賃が違っても年間の運行経費は同じ金額で算定しているのか。

→ (公共交通課) 運行経費については同じ金額で算定している。

・ 1回の運行時間はどれ位か。

→ (公共交通課) 20～30分程度で、車両は乗務員を含めて定員7人を予定している。ヒアリングしたシステム事業者によると、1回の運行で5、6人が乗り合うよりも、3人程度の乗り合いで小刻みに運行する方が効率が良くなるとのことだった。乗り合いの判断はA Iで効率的に行う。

・ 運行時間は何時から何時までか。

- ・ → (公共交通課) 運行時間は8時30分から18時を予定しているが、鷹の台駅前には道路規制により、9時までは通行できない。
- (小平交通) 駅に行く、駅から乗るなど目的があれば、通行は可能であり、タクシーは入っている。
- (公共交通課) 18時までの運行となると、最終予約は17時30分になる。詳細については、今後、運行事業者と調整する。
- ・ 需要を喚起することが重要である。例えば、病院の初診は予約が取れない場合が多いことから、早い時間帯に行かなければいけない。初診やスーパーのセールのために、300円払ってでも利用したい交通だと思ってもらうことが大切である。利用目的が増えれば乗車に繋がると考える。
- ・ 他の地域のコミュニティタクシーの利用目的の多くは、一つの駅へ向かうものであるが、南西部地域では、鷹の台駅や東大和市駅、武蔵野美術大学バス停など、複数ある。
- ・ 南西部地域は、駅への移動よりも、買い物や通院を目的とした移動が多いのでは。
- ・ 移動スーパーが定着している地域もあり、いなげや小平小川橋店は以前に比べると客が少ないと感じている。
- ・ この地域の高齢者は家の近くの病院として、南台病院まで自力で行く人が多い。
- (公共交通課) デマンド型交通は、コミュニティタクシーには無かった予約・配車システムの費用が掛かるため、持続可能な公共交通とするためには、無理のない財政負担となるように運賃設定を考える必要がある。
- (座長) 継続運行となる目標値については、引き続き2月の考える会で協議する。

(2) 周知・PR方法

- ・ 自治会での周知には限界があるので、地域説明会を開催して周知を図るのが良い。
- ・ 年度末は地域センターで自治会の総会を開催することが多いので、その場に出向いて説明してはどうか。
- ・ (座長) 3月に灯りまつりの役員会があるが、自治会や商店会、地元企業など25団体程、集まる。地域と繋がりがある団体が参加するので、活用してはどうか。
- (公共交通課) 自治会の総会や地域の集まり等、日程が分かったら教え欲しい。
- ・ 市報の戸別配布の際に、PRチラシと一緒に配布してはどうか。
- (公共交通課) 市報の戸別配布は事業者と委託契約により実施しているので、契約外の業務であるチラシの配布は難しい。
- 市報の1回目は、デマンド型交通の仕組みをお知らせし、2回目は具体的に利用・予約方法を案内することを考えている。
- ・ 利用者登録は早目のスケジュールで進めた方が良いのでは。
- (公共交通課) 5月中旬からの登録開始を想定していることから、5月5日号市報への掲載を考えている。

3 その他

(1) 市からの情報提供

市議会12月定例会で、令和6年6月からデマンド型交通実証実験運行の実施に向けて、令和5年度からの準備行為について議決された。

(2) 参加団体からの情報提供

鷹の台団地小平自治会から

三鷹市のA I デマンド(予約型乗合)交通に乗車したので、運行地域、車両、予約・配車アプリ等の状況について報告があった。

【今後の予定】

第79回 令和6年2月14日(水) 14時～ 小川公民館 ホール

次回は、

- ・ デマンド型交通の実証実験運行に係る運賃協議会・地域公共交通会議の報告
- ・ デマンド型交通の実証実験運行に当たっての、周知・PR方法の検討